

東南おきたま米づくり情報 No.7

適期に移植が行われたほ場では、有効茎数が確保されました！ 有効茎数が確保されたほ場から速やかに中干しを開始！

6月中旬は日照時間が多く、気温が高く推移したため、葉齢の展開が早く、茎数が平年より多く推移しています。有効茎数を確保したほ場から速やかに中干し・作溝を実施し、7月上旬の穂肥前には中干しが終わるようにしましょう。

生育状況 (6月20日現在、置賜農業技術普及課生育診断圃)

平坦部「はえぬき」の生育

項目	川西町吉田		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	32.2	109	長い
茎数(本/m ²)	413	119	多い
葉数(枚)	8.3	0.6	多い
葉色(SPAD)	42.7	1.0	やや濃い

「つや姫」の生育

項目	川西町黒川		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	35.7	102	平年並み
茎数(本/m ²)	501	127	多い
葉数(枚)	8.6	0.9	多い
葉色(SPAD)	42.8	1.3	やや濃い

「雪若丸」の生育

項目	高畠町山崎		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	30.9	98	平年並み
茎数(本/m ²)	725	137	多い
葉数(枚)	9.4	0.9	多い
葉色(SPAD)	45.9	0.4	平年並み

1か月予報 (6月20日 気象庁発表)

気温：6/22～6/28：高い見込み
6/29～7/5：高い見込み
7/6～7/19：高い見込み
降水量：平年並み～多い見込み
日照時間：平年並み～少ない見込み

有効茎数確保後は、直ちに中干し・作溝を開始！

- 穂肥の前に、過剰生育を抑え、根張りの促進を図り、穂肥がしっかり行える稲姿にしましょう。
- 6月中の中干しによる直下根の発生が、出穂後の高温対策として有効です。
- 目標茎数の8～9割に達したら、遅れずに中干し・作溝を実施しましょう。
- 中干しの目安はほ場に小ヒビが入る程度ですが、葉色や生育量に応じて中干しの強度(乾き具合)を調節します。
- 中干し後は、走り水で飽水管理をした後に、徐々に間断かん水(2日湛水・2日落水)に切り替えます。

品種別の目標茎数の目安(本/株)

品種	1株当たりの目標茎数 70株/坪植えの場合	
	60株/坪	70株/坪
はえぬき	23本	20本
つや姫	20本	20本
雪若丸	27本	20本
ひとめぼれ	24本	20本
あきたこまち	22本	20本
コシヒカリ	23本	20本

【中干し・作溝の効果】

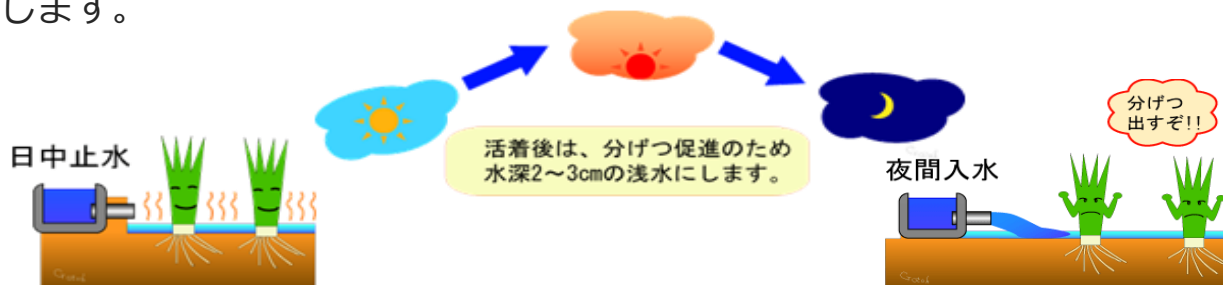
- ◎無効分げつの抑制、根の健全化、受光体勢の良化
→ 登熟向上、倒伏軽減
- ◎間断かんがいの効率化 → 地耐力の向上、節水効果

茎数が不足しているほ場は茎数確保を優先！

○茎数が不足しているほ場では、引き続き以下の2つの管理で分げつを促進し、6月中に有効茎数を確保するように努めましょう。

① 浅水管理（水深2～3cm） ② 昼間止水・夜間かんがい

○土壌の還元が進んでいるほ場がみられます。異常還元（ワキ）で、生育が停滞し、葉色が低下しているほ場では、速やかに水の交換や一時的な落水（2～3日の田干し）を行います。茎数が不足している場合は、水交換または夜間のみの落水とします。



取り置き苗で葉いもち確認！早期発見・早期対策を！

- 補植用取り置き苗で葉いもちの発生が確認されています。ほ場に残っている場合は、速やかに撤去しましょう。
- 穂いもちを抑える一番の対策は、葉いもちを発生させないことです。稲をよく観察し、早期発見・早期防除を心掛けましょう。



葉いもちの病斑

斑点米カメムシ類の発生はやや多い！（県病害虫防除所予察状況）

- 畦畔・農道、雑草地の除草（草刈り）を地域ぐるみで行い、地域全体の斑点米カメムシ類の生息密度を下げましょう。
- 水田内のイヌホタルイやノビエはアカスジカスミカメの発生源になります。残草対策もしっかり行いましょう。



アカヒゲホソミドリカスミカメ アカスジカスミカメ

農作業事故と熱中症に要注意！ 声をかけ合い農作業事故ゼロへ！

複数人での作業実施、施設や道具の点検、転落防止のための対策などを徹底しましょう。また、こまめな休憩と水分補給。ゆとりをもった無理のない作業を心掛けましょう。

山形県農薬危害防止運動 実施中！ 農薬使用の際は使用基準を再確認！